

# FIREDIPPER for OSCE 導入事例

札幌市立大学 看護学部様

## FIREDIPPER for OSCE の カスタマイズによって、 より円滑なフィードバックが可能に!

札幌市立大学看護学部は、独自で開発された OSCE（オスキー）実施支援システムの老朽化に伴い、このたび新たに「FIREDIPPER for OSCE」を導入しました。2024年3月まで同大学の副学長・看護学部長を務めておられました松浦和代教授に、導入の経緯や導入後の変化、FIREDIPPERの活用方法や期待したいことについてお話を伺いました。



## 「人間尊重」と「地域貢献」を理念に掲げ、実践力のある人材を輩出する大学

### —『札幌市立大学』について教えてください

札幌市立大学は、2006年に市民のための公立大学として開設されました。当大学の教育理念は、「人間尊重」と「地域貢献」です。大学はデザイン学部と看護学部の2学部、大学院は看護学研究科とデザイン研究科博士前期課程、博士後期課程を有しています。

総合大学としては最少規模ですし、デザイン学部と看護学部の組み合わせは、異色な組み合わせかもしれません。ところがこの組み合わせが学部間の連携に良い影響をもたらして、後述するOSCE実施支援システム「Mulberry」の開発につながりました。

私たちは公立大学としての使命感から、地域に貢献できる実践力のある人材の輩出を大学の総意として重要視しています。看護学部は、これまで文部科学省の



グッドプラクティスや医療人材育成のための事業にもアプライしており、大型の教育研究費を獲得しています。そういった流れの中で、私たちが大事にしてきた実践力育成のためのメソッドが「OSCE(オスキー)」です。

## 独自に開発した OSCE 支援システムの老朽化に伴い、 外部委託を決意

### —FIREDIPPER for OSCE を導入する前に抱えていた課題や導入の経緯を教えてください

2006年の大学開設当初から、私たちはOSCE（オスキー）の導入を検討していました。ただ、その当時は看護領域でOSCEを実践している事例はほとんどなく、教育的な体系として検討していた大学もありませんでした。看護OSCEを実質的に基盤から立ち上げて現在の形まで育ててきたことは、当大学の非常に大きな特徴と言えると思います。

私たちはデザイン学部の先生とともに「Mulberry」というシステムを開発して、ずっと使っていました。ところが、開設から15年目くらいになるとシステムの老朽化によって、さまざまな不具合が起きるようになったのです。

私たちは、Mulberryを一から作り直すか、あるいは外部のソフトを導入するかという非常に重要な意志決定を迫られました。そこで、ソフトウェアやメンテナンスを外部に委託して、いつも最善のコンディションでOSCEを使い続けたいという結論に達しました。



札幌市立大学  
松浦 和代 教授

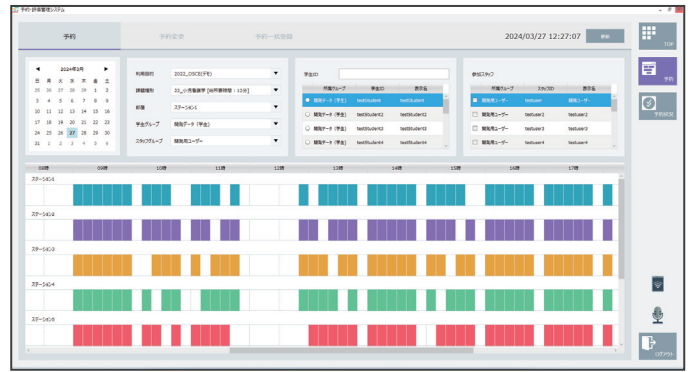
# 旧システムからの移行が円滑で、画面表示もよりわかりやすくなった

## —FIREDIPPER for OSCE を導入して良かったことを教えてください

FIREDIPPERを導入してから、進行中の画面表示が格段に良くなりました。画像も鮮明ですし、進行中のカウントダウンが画像で表示されるところも優れていると思います。Mulberryを使用していたときには数字で表示されていた進行状況が可視化されるようになったことで、より直観的にわかりやすくなりました。

日本テクノ・ラボ様から担当の方を派遣していただいているので、導入に際して何かトラブルがあったときも要望が出しやすく、かつ迅速に対応していただけます。結果的に、MulberryからFIREDIPPERへのシステム移行は、非常に円滑にできたと思っています。

正直なところ、費用面ではかなりコストがかかっています。看護学部としては、かなり大規模な予算を組んでメンテナンスを行っていますが、その一方で費用に見合うたくさんのメリットがあるということも実感しています。



FIREDIPPER for OSCE 操作画面

# 旧システムで採用していた評価の手法をカスタマイズによって再現できた

## —FIREDIPPER for OSCE で特に高く評価しているポイントはどこですか？

私たちは学生に評価をフィードバックするに当たって、「OSCE(オスキー)ではここをフィードバックしなければいけない」という重要なポイントを経験として蓄積してきました。それは、Mulberryを使用していた頃から現在に至るまでの15年間で得た、評価のノウハウのようなものです。



試験結果・総評画面

今回FIREDIPPERを導入するに当たって、私たちが築き上げてきたフィードバックのポイントを反映させることができないか、担当の方にご相談しました。結果としてこちらの要望通り、フィードバックのポイントを新しいシステムに追加していただけだったので、とても良かったと思います。

私たちが学生に指導を行う際には、目標を一般目標と行動目標に分けて、学生に課題を提示します。そして、一般目標と行動目標の達成を評価するための評価基準を、およそ15~20項目ほど設けています。

FIREDIPPERでは、評価項目別に得点率を出して棒グラフで表示することができます。私たちはすべての項目の平均点を示したレーダーチャートを作成し、そこに個人点をプラスして学生に渡します。レーダーチャートを見れば、どこが平均点よりも低いのか、どこが平均よりも突出しているかということが一目でわかるようになっています。

私たちはレーダーチャートを学生とのコミュニケーションツールとして利用しながら、「ここを強みにしましょう」「ここは次年度の課題にしましょう」といったフィードバックを行います。

Mulberryは自作のシステムだったので、開発を担当したデザイン学部の先生が、私たち独自の評価基準や評価手法をうまく反映していました。そういう意味でもMulberryは、「手作りのシステム」だったと言えるでしょう。Mulberryと同じ手作り感をシステムのカスタマイズによって再現していただけた点は、非常に高く評価できると感じています。

## OSCE の手法を活用して、リモート医療やリモート看護を発展させたい

### —今後の OSCE の発展や地域貢献を含めて 将来へのビジョンについて教えてください

私たちは2023年度から、OSCE(オスキー)を運用するシステムとしてFIREDIPPERを使用しています。けれども、FIREDIPPERは今後、さらに幅広い領域で活用できるのではないかと考えています。例えば、リモート看護やリモート医療に関する教育です。

実は、私たちはコロナ禍の間に「リモートOSCE」を試行しました。感染症予防対策を前提とし、これまでの対面によるOSCEではなく、オンラインによるOSCEに取り組んでみたのです。そのうえで私たち教員は、模擬患者さんと学生の2画面を表示しながら、学生を評価しました。このような手法は今後、遠隔地看護における支援や非接触型の看護にも応用できると感じています。

少子高齢化や過疎化が進行する日本においては、今後、リモート看護やリモート医療は必要不可欠なものとなるでしょう。そのような状況のなか、「FIREDIPPERはリモート医療に貢献できる可能性を秘めている」「このソフトはリモート看護のシーズを提供する可能性がある」

—このような将来性を感じています。

## Customer Profile



創業 1989年  
代表者 代表取締役  
松村 泳成  
本社 神奈川県横浜市  
資本金 436,200,000円  
従業員 28名

### 事業内容

- イメージング&プリンターコントローラー事業
- 映像セキュリティ事業
- 情報セキュリティ事業
- ストレージソリューション事業
- 受託開発事業

お問い合わせ先

日本テクノ・ラボ株式会社

TEL : 045-263-8546

日本テクノラボ

検索